

北空知4町地域における公共交通の現状と課題について

【現状の公共交通（詳細図は資料4-2）】

路線等		運行便数・エリア等
JR留萌本線		1日7往復
JR函館本線(深川～滝川間 普通)		1日上り9便、下り8便
空知中央バス	沼田線 (沼田～秩父別～深川)	1日5往復 (土日祝4往復)
	北竜線 (北竜～妹背牛～深川)	1日5往復 (土日祝下り4便)
	深滝線 (滝川～雨竜～妹背牛～深川)	1日上り12便、下り14便 (土日祝上り11便、下り10便)
北海道中央バス	高速るもい号 深川経由 (札幌～深川～秩父別～留萌)	1日4往復 (バス停「秩父別IC入口」で上り乗車のみ、下り降車のみ)
	高速るもい号 滝川経由 (札幌～滝川～雨竜～北竜～留萌)	1日4往復 (バス停「碧水」「北竜役場前」で上り乗車のみ、下り降車のみ)
	滝川北竜線 (北竜～雨竜～新十津川～滝川)	1日上り1便、下り2便 (土日祝下り1便)
沿岸バス 留萌旭川線 (留萌～北竜～秩父別～深川～旭川)		1日8往復
沼田町営バス	東予線 ※スクール併用	1日3便
	幌新線 ※スクール併用	1日5往復 (土日祝は4往復)
スクールバス	沼田町 (北竜中央線)	混乗不可 1日3便 (午前1便、午後2便)
	秩父別町 (登校便、下校便)	混乗可能 西方面：登校便1日1便、下校便1日3～4便 東方面：登校便1日1便、下校便1日3～4便 (平日のみ)
	北竜町 (碧水線、竜西線、美葉牛線)	混乗可能 碧水線・竜西線1日3便、美葉牛線1日4便
	妹背牛町	混乗不可
ハイヤー	三共ハイヤー	妹背牛町
	新星ハイヤー、三共ハイヤー	秩父別町
	和ハイヤー	北竜町
	明日萌観光ハイヤー	沼田町
乗合タクシー	和ハイヤー	北竜町
	明日萌観光ハイヤー	沼田町
有償運送	福祉有償 (社協)	北竜町
その他 (病院バス、デイサービスバス)		妹背牛町診療所、デイサービス利用者送迎

【課題等】

- ・ JR留萌本線は、平成28年11月に「単独では維持することが困難な線区」と位置づけ
- ・ 路線バスは、自家用車の普及、人口減少、コロナの影響などによる収入減少、バスの運転手不足、さらには市町村負担の増大などにより、路線を維持することが困難
- ・ 通院、通学などの交通弱者の足の確保が必要
- ・ スクールバス、福祉輸送、民間事業者の送迎サービスなど、地域の多様な輸送資源も最大限活用して、持続可能な移動手段の提供の確保が必要
- ・ デジタル化や環境への対応（MaaSの活用、電気バス導入など）

※MaaS：「Mobility as a Service」の略。ICT（情報通信技術）を活用し、電車、バス、タクシー、自転車などあらゆる移動を一つのサービスとして展開するもの。

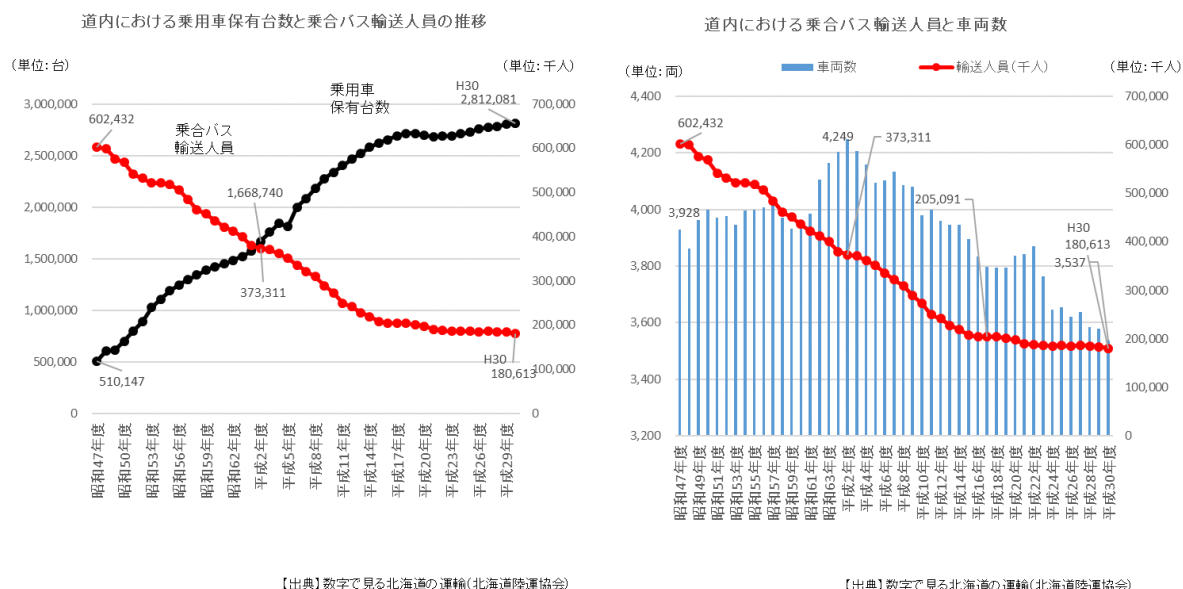
- ・ 「地域公共交通活性化再生法」の改正により、**全ての地方公共団体が「地域公共交通計画」の策定が努力義務化**

※計画策定と路線バス運行補助金交付が連動化

道内乗合バス事業の現状1～輸送人員(利用者数)の推移～

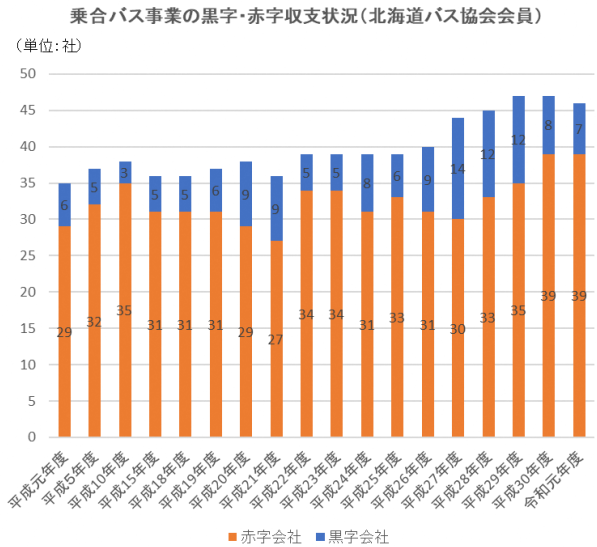
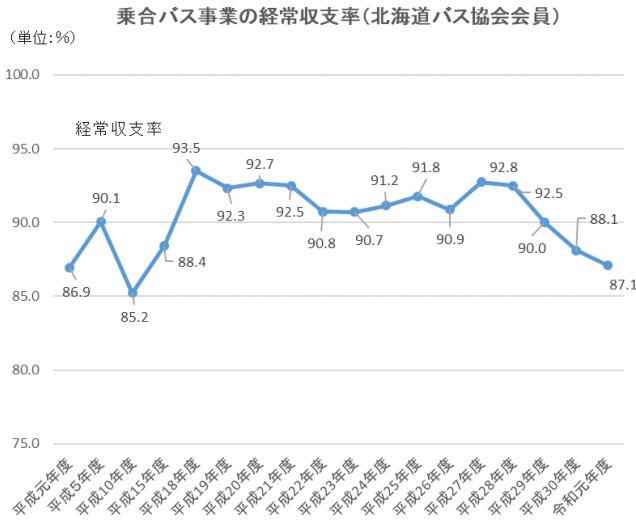
○乗用車の保有台数が増加傾向で推移するのに反比例して、乗合バスの輸送人員、乗合バス車両数も減少。

○モータリゼーションの進展、沿線人口の減少等により乗合バスの利用者数は減少傾向で推移。



道内乗合バス事業の現状2 ～経常収支率等～

- 乗合バス事業の経常収支率は、80%台後半から90%台で推移、恒常的に100%を下回り、厳しい事業経営となっている。
(参考: 全国の乗合バス事業の令和元年度経常収支率は92.8%)
- 乗合バス事業のうち黒字会社の割合は、年度により大きく増減している(平成10年度7.9%、令和元年度15.2%)。
(参考: 全国の乗合バス事業の黒字会社の令和元年度の割合は25.6%)

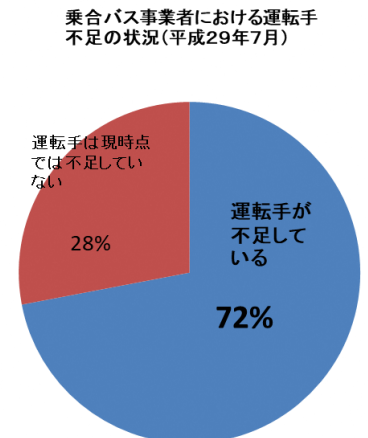
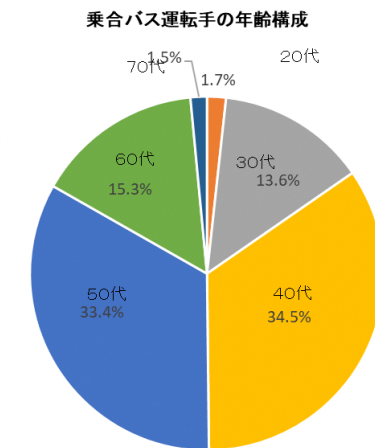
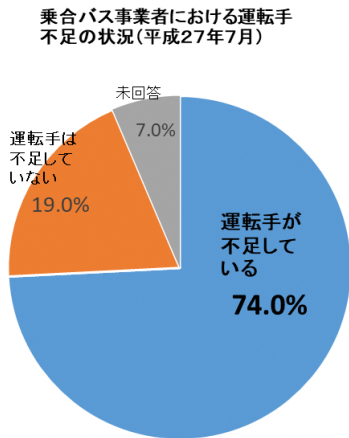


【出典】北海道のバス事業(北海道バス協会)

【出典】北海道のバス事業(北海道バス協会)

北海道における乗合バス運転手の不足状況

- 乗合バス事業者の約7割で運転手が不足しており厳しい状況
平成27年7月 北海道運輸局調査を分析(62社対象) **運転手が不足している事業者 74%**
平成29年7月 北海道調査(25社対象) **運転手が不足している事業者 72%**
- 運転手の年齢構成は50代以上が全体の50.2%と過半を占め、運転手の高齢化が顕著



北海道運輸局(平成27年7月)調査を北海道で分析

北海道総合政策部交通企画課調査(平成29年7月)